

結成70周年を祝い鏡開きを行った神戸港湾労働組合連合会

「100周年へ新たな一歩」

結成70周年記念し祝賀会

【関西】神戸港湾労働組合連合会（神港労連）の結成70周年記念祝賀会が4日、神戸市内で開かれた。神港労連は1956年の結成以来「港湾労働者の雇用と職域を守る」という信念の下、活動を続けてきた。吉岡幸治執行委員長は「諸先輩方が築いてきた歩みを継承し、100周年に向け新たな一歩を踏み出していく」と宣言した。

式典は松岡行生副執行委員長の開会あいさつの後、吉岡執行委員長が主催者あいさつした。吉岡執行委員長は「結成当時の港湾労働環境は波動性が高く、ほぼ全てが手作業による厳しいものだった」と先人の苦労に思いをはせた。

その上で56年の米軍貨物入札制度反対闘争、68年のKCT闘争など、同連合会の活動の歴史をひもときながら、労働条件改善や安全確保、港湾秩序向上に寄与してきたことを紹介した。

また95年の阪神淡路大震災では「労使一体で神戸港の復興に傾注して取り組んだ」と振り返るとともに、「他港就労では受け入れ先の関係者にお世話いただいた」と改めて謝意を示した。

来賓からは日本港湾労働組合連合会の徳里則之中央執行委員長、神戸船内荷役協会の安原優会長、神戸船内荷役協会・神港労連関係会社の田岡龍代表、兵庫県港運協会の松田亮副会長・エゼント委員長、全国港湾労働組合連合会の竹内一中央執行委員長（港湾荷役事業関係労働組合協議会議長）があいさつした。

徳里氏は「激動の時代を乗り越え、神戸港での諸制度の礎を築いたといっても過言ではない」とたたえた。安原氏は「誇りを持って長く働ける港を作るため、皆さまと力を合わせていく」と述べた。

田岡氏は「一枚岩の労使の関係を今後もしっかりと持って進まねばならない」と強調。松田氏は久保昌三会長の祝辞を代読し「港湾の変化が予想される時代だからこそ、経験と団結力、人と人とのつながりが重要になる」と述べた。竹内氏は「魅力ある港湾活動の確立に向け変わらぬ団結の力を賜りたい」と話した。

その後、関係者で鏡開きを行い、日本港運協会・船内経営者協議会の飯泉勝也議長代行の音頭で乾杯した。最後は同連合会の芦田邦秀副執行委員長のあいさつで閉会した。